

第19回ScholAgoraセミナー「学術情報流通—明日を支えるシステムは何か？」

iJapan 株式会社 × OpenAlex Member (+)

少子高齢化の限られた予算で、ユーザの満足と将来 の学術情報の保全を両立させる

— Openサービスの取り込みとOpenAlex Memberの活用

図書館員に求められる **3つの新しい役割** — 機関出版物の保全責任者＋電子購読最適化＋データ基盤管理者

OpenAlex等データ× AI で実現する、機械利用時代のデータ品質管理と50年先までの成果保全

2026年9月18日 | iJapan株式会社 笠間 和喜

kazuki@igroupjapan.com

限られた予算で、ユーザへの満足と 50年先の学術情報の保全を両立させる戦略

戦略①

機関出版物の保全責任者

お客様の作業は、Affiliation Editorから著者所属情報を出力してiJapanへご提出いただくのみです。iJapanが精査したデータをプラットフォーム上で最終確認・承認していただくことで、著作物情報とRORが同時に修正・整備されます。自機関の論文が50年後、100年後も正しく記録・参照され続ける基盤を構築します。

DOI「何を」

ORCID「誰が」

ROR「どこで」

戦略②

電子購読支出を最適化する

Unsubで費用対効果を分析。難しいのはTAデータだけです。iJapanがサポートします。データ基盤管理者と調整し、購読データベースのオープンデータベースへの移行を模索します。

可視化「何が使われているか」

移行「何を切り替えるか」

最適化「何を削るか」

戦略③

データ基盤管理者

オープンDB、特にAPIの活用を促進し、APIの利用を管理し、ユーザの研究に必要な情報の入手方法を提示します。
将来的には購読データベースのOpenサービスへの移行を目指します。

利用者にデータ利用を提案し、可視化
→ 段階的Openサービスへの移行



この戦略を、OpenAlex Member(年間 \$5,000) の3ツールで実現。

API利用管理ダッシュボード／ Affiliation Editor ／ Unsub — iJapan及びScholAgora社が導入から運用まで伴走。図書館の負担は最小限。

本日の流れ — 戦略としての OpenAlex Member

0	会社案内	iJapan株式会社のご紹介
1	予算の現実	図書館予算の現状／OA投資の実態（APC）／構造的問題
2	利用構造の転換	機械利用の急増／Barcelona宣言
3	機関アウトプットの危機	所属メタデータ品質／永続識別子／ROR課題と世界の動向
4	解決基盤: OpenAlex	アレクサンドリア図書館の精神／327M・CC0・無料／日本語コンテンツ
5	具体策と OpenAlex Member	図書館員の新役割／API可視化／Affiliation Editor／Unsub／3ツール／料金／ロードマップ

会社案内

目標

ビッグデータとAIを武器にしたサービス向上
次世代に繋げる学術情報
学術情報を介した社会貢献



iJapan株式会社

所在地

東京都足立区千住中居町17-20
マルアイビル5F-21

設立

2012年6月

グループ

iGroup(アジア太平洋を中心に
学術流通事業を展開)と深い繋がり

主な取引先

政府機関、国公私立大学、研究機関

主な事業内容

- OpenAlex社 — OpenAlex member(+) 日本における代理店
- 図書館リモートアクセスサービスの提供(MyLOFT)
- 科学論文の不正画像自動検出ツール(Imachek)
- 子供の虐待防止コンテンツの翻訳と普及(Evidentia Learning)
- 各種取次(Overton, Scite_, 言語運用能力テスト, RDA toolkit, Intelext past master、雑誌取次等)
- MSP(数学系出版社)総代理店

01

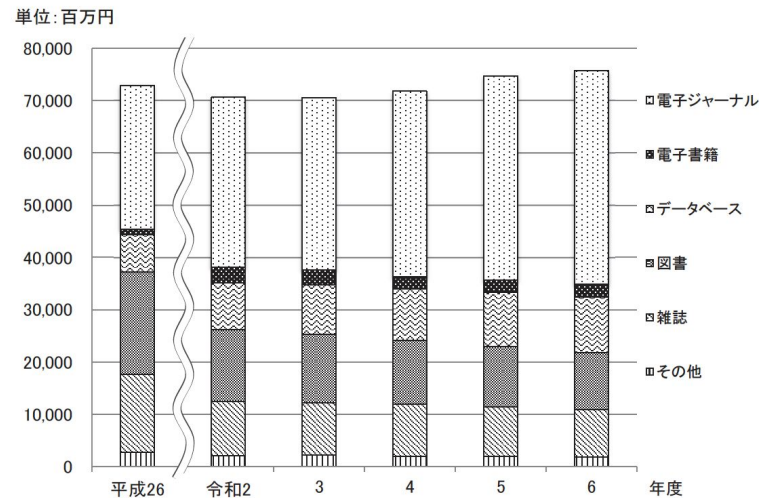
PART 1 — REALITY

予算の現実と50年後の問い

図書館予算757億円の6割が電子媒体に集中。世界のAPC支出は7年で4倍に急増。増えない予算と増え続けるコスト— この構造的課題に向き合う。

大学図書館の資料費 757億円 — 電子媒体が6割を占める

・ 図書館資料費の内訳及び推移



電子媒体 433億円

前年比 +19億円(電子ジャーナル中心)

電子ジャーナル経費は 390億円超。転換契約の拡大で購読料の一部が APC(論文処理費用)に転換され、OA出版への投資が事実上拡大。しかし総額の把握は困難。

単位: 百万円

年 度	平成26	令和2	3	4	5	6
電子ジャーナル	27,569 37.8%	32,565 46.1%	32,856 46.6%	35,438 49.3%	39,039 52.2%	40,897 54.0%
電子書籍	1,028 1.4%	2,855 4.0%	2,843 4.0%	2,354 3.3%	2,359 3.2%	2,382 3.1%
データベース	7,175 9.8%	9,035 12.8%	9,498 13.5%	9,929 13.8%	10,397 13.9%	10,646 14.1%
図書	19,567 26.8%	13,731 19.4%	13,158 18.7%	12,183 17.0%	11,481 15.4%	10,962 14.5%
雑誌	14,938 20.5%	10,358 14.7%	9,978 14.1%	9,893 13.8%	9,546 12.8%	9,039 11.9%
その他	2,684 3.7%	2,103 3.0%	2,200 3.1%	2,019 2.8%	1,929 2.6%	1,822 2.4%
合 計	72,961 100%	70,648 100%	70,532 100%	71,815 100%	74,752 100%	75,749 100%

図書・雑誌への支出は年々減少。限られた予算の中で、電子リソースへの投資比率は高まり続けている。予算全体は微増でも、配分構造は大きく変化。

世界のAPC支出は7年で4倍 — 見えないOAコストの実態

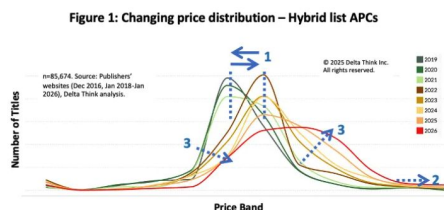
\$15.08 billion

14出版社へのAPC総額(2019–2025)

Matthias et al. (2025) の推計では、主要 14社に支払われた APCは7年間で \$15.08B。年間\$0.9B(2019)→ \$3.7B(2025)へ約4倍に急増。支出の 85%以上が少数の大手出版社に集中。

出典: <https://arxiv.org/abs/2608.16322>

Hybrid OA APC 昨年比5.3%値上げ Full OA APC 昨年比6.8%値上げ



<https://www.deltathink.com/news-views-open-access-charges-when-on-trend-still-means-higher-spend>

転換契約の影響

Hybrid APCがGold APCを上回る

転換契約(Read & Publish)により図書館が購読料の一部として APCを負担。Hybrid OAの実質費用はGold OAより高額。転換契約がコストの不透明性を高め、図書館は「OAにいくら投資しているか」を把握できない。

日本の学術情報環境に潜む、3つの構造的な問題

¥

高額なライセンス費用

ジャーナルやDB価格は毎年上昇、図書館予算は削減。大学規模でアクセス格差が拡大し、毎年の更新交渉に追われる。

あ

日本語論文の不可視性

WoS・Scopusは英語圏中心。J-STAGEや機関リポジトリの日本語論文が過小収録され、日本の研究貢献が過小評価される。

?

ブラックボックスのデータ収集

収録・分類基準は非公開で第三者が検証・再現できない。税金で生んだ研究成果を、再び高額で「買い戻す」構造。

学術情報インフラが「私有化」されている — これは一機関の問題ではなく、研究コミュニティ全体の課題です。

出典: Mongeon & Paul-Hus (2016) Scientometrics / Waltman et al. (2018) STI proceedings / Zhang et al. (2024) Scientometrics

変化の波

利用の主役は「人」から「マシン」へ — データが示す歴史的転換

57.5%

のHTTPリクエストがボット(マシン)の利用

Cloudflare CEO Matthew Prince (2026年6月3日 X投稿) —「Welp, that happened faster than I predicted.」機械が人間を超える歴史的転換。

<https://www.forbes.com/sites/josipamajic/2026/06/04/bots-now-outnumber-humans-online-and-the-internet-was-never-built-for-this/>

187%

2025年を通じて自動化トラフィックは人間の活動より約8倍速く増加し、AIトラフィックは2025年1月から12月の間に187%増加した。

<https://www.cnbc.com/2026/03/26/ai-bots-humans-internet.html>

51%

2024年に自動化ボットのトラフィックが全体の51%を占有。

10年ぶりに人間のトラフィックを超えた。

1,800万

回／日の OpenAlex APIコール

OpenAlexはWeb画面(2023年～)より前に、機械可読のデータ取得サービス(2022年～)として誕生。ターゲットは人以上に機械。

バルセロナ宣言が示す方向 — マシン利用データで予算を証明する

研究情報のオープン化に関するバルセロナ宣言

- ✓ **多言語対応** 多様性と包摂性(英語以外も収録)
- ✓ **公平な全世界収録** 地域的バイアスの解消
- ✓ **機械可読性** 機械が読みやすい形式でのデータ提供

#	ワーキンググループのテーマ	主な目的・活動
1	論文・書籍メタデータ	出版社による重要メタデータのオープン公開を促す
2	リポジトリ等の研究成果メタデータ	研究成果の多様な種類に対応した高品質メタデータを整備する
3	研究助成メタデータ	助成情報の登録・公開・標準化を強化する
4	クローズな研究情報システムの代替	オープンな研究情報システムの導入・利用を支援する
5	インフラの持続可能性	オープン・インフラの中長期的な資金・運営を検討する
6	オープン研究情報源の評価	情報源の品質・完全性を評価する枠組みをつくる
7	オープン研究情報の便益に関するエビデンス	利点を事例・分類・関係者マップで可視化する



だから、いま何が求められるか

日本語も含む機械可読性を利用した研究へのプロモーションです。

学生数が減っても、機械利用の「伸び」が予算の正当性を証明する。

03. 機関アウトプットの危機

課題 ① 所属メタデータの品質問題

所属情報の欠落は「上流」由来の共通課題 — オープンなら RORを付与して「直せる」



欠落・誤りの多くは **出版社** → **Crossref** という「上流」のメタデータに由来 する、学術DB共通の課題です (OpenAlex を含む／Zhang et al. 2024)。

なぜ起きるのか — 原因は「上流」にある

- › 略称・旧称・日本語表記をAIが誤判定 (Handai→大阪大学)
- › 大学院・附属病院が「別機関」と認識される
- › 大学統合・改組後に過去論文が切り離される
- › **出版社がCrossrefに所属情報を未提供(＝根本原因)**

所属に紐付かない論文が招く影響(DB共通)

- ▶ **大学ランキング**
QS・THE・ARWUは機関に紐付いた論文・引用数を使用。所属なし論文は集計から外れる。
- ▶ **研究費配分・機関評価**
文科省・JSPS・科研費の判断にも機関実績が使われ、「見えない研究実績」が積み上がる。

OpenAlex だけが「直せる」— オープンで透明な基盤



商業DBは非公開で購入していないと検証も修正依頼もできません。OpenAlexは**オープン**だからこそ欠落を可視化でき、**Member機関が最短2日間で自ら修正**できる唯一の基盤です。上流やリリースでカバレッジは変動しうるため、能動的な整備がそのまま「保険」になります(＝役割②)

Persistent ID (永続識別子) が、学術情報を「次世代へ引き渡す」

DOI

「何を」

Digital Object Identifier

1997年～

論文・データ・ソフトウェアに付与される永続 URL。リンク切れを防ぎ、50年後も同じ論文を参照できる。

ORCID

「誰が」

Open Researcher & Contributor ID

2012年～

研究者個人の一意ID。改名・機関移動があっても業績を一意に追跡・引き継げる。

ROR

「どこで」

Research Organization Registry

2019年～

研究機関の永続ID。機関名の表記揺れ・統廃合を超えて実績を正確に集計・継承できる。



3つのPIDが連携することで、学術情報は「点」ではなく「永続するネットワーク」になる。

URLはいつか消えても、相互連携する永続IDが50年後・100年後の未来へ研究成果を確実につなぐ。

日本のROR登録には、特有の4つの課題がある



RORは北千住ROR(美容室)ではありません。

1

自機関のROR IDを知らないケースがある

NISTEPの辞書でRORが割り振られたことを機関側が把握していない

2

メンテナンスの格差

大学名変更・統合後も、誰も情報を更新しないケースがあります

3

運用ルールが理解されていない

子機関・附属病院・関連機関の定義、住所変更時の扱いが未整備

4

担当部署が未定

学内でどの部署がメンテナンスを担うか決まっていない

大学統合で起きている「登録の実例」

少子高齢化で大学統合は今後さらに増える。RORは無料で修正可能。



大阪公立大学・東京科学大学(最近変更)

前身(大阪府立・市立)が正しく前身機関として記載



大阪外国語大学 → 大阪大学

現在大阪外国語大学は大阪大学となっております。RORがありません。業績はどこの在籍時として登録されますか？



学習院女子大学

統合後も大学としてRORが残存。前身機関として整理が必要



iJapanの取り組み : ROR登録・メンテナンスのベストプラクティス策定を支援。論文はOpenAlexのAffiliation Editorで修正フローを整備します。

世界での ROR の活用状況

1

オランダ研究評議会 (NWO): NWO は助成金管理システム (SAAC) に **ROR ID** を統合しており、オープン API「NWOpen」で研究者の所属機関を **ROR ID** で検索・特定できるようにしています

2

カナダ・ケベック州研究基金 (FRQ): Crossref に **ROR ID** で自機関を識別する形で 20,000 件以上の助成金情報を登録しています。

3

米国エネルギー省 (DOE): DOE Award DOI Service も、助成機関の識別に **ROR ID** を使用しています。
米国 NIH: Generalist Repository Ecosystem Initiative (GREI) で **ROR ID** を活用し、助成研究から生まれたデータセットの追跡を行っています。

4

ドイツ研究振興協会 (DFG): DataCite に登録された 30 万件以上の DOI レコードで **ROR ID** により助成機関として識別されています。

5

Europe PMC Grant Finder: 助成金データベース (GRIST) 内の関連機関の 82% を 2,600 以上の **ROR ID** に紐づけ、機関名の表記ゆれを超えた助成金検索を実現しています。

Ranking

CWTS の **ライデン大学 Open Edition の大学ランキング** では OpenAlex を利用して各機関を **ROR ID** で識別しているため、ランキングの基盤に **ROR** が組み込まれている形です。論文数、被引用インパクト、Top10% 論文比率、オープンアクセス率などの指標で世界中の大学を評価しており、データとソースコードもすべてオープンに公開されています。

Crossref

Crossref の **Open Funder Registry (助成機関レジストリ)** が **ROR** に統合移行されることが決定しており、これによりすべての学術出版物のメタデータで助成機関が **ROR ID** で識別される方向に進んでいます。

投稿
システム

オンライン論文投稿・査読システム **ScholarOne** に続き、**Editorial Manager**, **Open Journal Systems (OJS)**, **Pure / DSpace** が **ROR ID** をサポート

出版社
や DB

学術データベース: **Web of Science (Clarivate)**, **Crossref**, **DataCite**, 出版社 **Cambridge University Press (CUP)**, **American Physical Society (APS)** は **ROR ID** をサポート

様々な助成機関、出版社、サービスが ROR の活用により、外堀が埋まりつつあります。

04

PART 4 — OpenAlex

解決基盤: OpenAlex

「人類の知をすべて集める」— 3億2,800万件をCC0で提供するオープン基盤。永続識別子で学術情報を次世代へ引き渡す。

327M件・CC0・完全無料・API — 誰でも今すぐ使えるインフラ

327M+

学術論文・プレプリント

Crossref・PubMed・arXiv・DataCite
等を統合

CC0

パブリックドメイン

書誌情報は自由に利用・再配布可能

\$0

完全無料

API・全データ無料(APIは利用制限あり)

PID

永続識別子連携

ROR・DOI・ORCIDで機関・研究者・論文を一意特定

買収リスクが低い、信頼できる基盤

米国の非営利法人(501(c)3)。オーナー不在・株式発行なし。

POSI(オープンな学術基盤の原則)にコミット

研究コミュニティを支えるオープン基盤を、長期かつ健全に維持するための国際ガイドライン。2026年7月時点で29組織・プロジェクトが賛同し、各組織は定期的に運営状態のレビューを受ける。OpenAlexはほぼ全項目で高評価。

Crossref / DataCite / DOAJ / ROR / OpenAIRE / OpenCitations / Europe PMC ... ほか

多言語化：日本語コンテンツの状況

IRDB

機関レポジトリ

登録済み
2日でUpdate

JaLCデータ

JSTage/NDL/Preprint/Jxiv

調整中

Kakenデータ

科研費のデータ

登録済み

Amed/NEDO

その他の助成機関データ

登録予定

AIとOpenAlex等のビッグデータの組み合わせで、日本語の論文でも問題ない。データがないと研究自体がないと思われる。

商用出版社の書誌情報

JSTage以外の学会出版社の書誌情報

その他研究所の報告書等

```
{
  "id": "https://openalex.org/W4406150821",
  "doi": "https://doi.org/10.1038/s44306-024-00066-9",
  "title": "Altermagnetic perovskites",
  "display_name": "Altermagnetic perovskites",
  "publication_year": 2025,
  "publication_date": "2025-01-07",
  "ids": {
    "openalex": "https://openalex.org/W4406150821",
    "doi": "https://doi.org/10.1038/s44306-024-00066-9"
  },
  "language": "en",
  "primary_location": {
    "id": "doi:10.1038/s44306-024-00066-9",
    "is_oa": true,
    "landing_page_url": "https://doi.org/10.1038/s44306-024-00066-9",
    "pdf_url": "https://www.nature.com/articles/s44306-024-00066-9.pdf",
    "source": {
      "id": "https://openalex.org/S4389158143",
      "display_name": "npj Spintronics",
      "issn_l": "2948-2119",
      "issn": [
        "2948-2119"
      ],
      "is_oa": true,
      "is_in_doaj": true,
      "is_core": true,
      "host_organization": "https://openalex.org/P4310319900",
      "host_organization_name": "Springer Science+Business Media",
      "host_organization_lineage": [
        "https://openalex.org/P4310319900",
        "https://openalex.org/P4310319965"
      ],
      "host_organization_lineage_names": [
        "Springer Science+Business Media",
        "Springer Nature"
      ],
      "type": "journal"
    },
    "license": "cc-by-nc-nd",
    "license_id": "https://openalex.org/licenses/cc-by-nc-nd",
    "version": "publishedVersion",
    "is_accepted": true,
    "is_published": true,
    "raw_source_name": "npj Spintronics",
    "raw_type": "journal-article"
  },
  "type": "article",
  "indexed_in": [
    "crossref",
    "doaj"
  ],
  "open_access": {
    "is_oa": true,
    "oa_status": "gold",
    "oa_url": "https://www.nature.com/articles/s44306-024-00066-9.pdf",
    "any_repository_has_fulltext": true
  },
  "authorships": [
    {
      "author_position": "first",
      "author": {
        "id": "https://openalex.org/A5089226620",
        "display_name": "M. Naka",
        "orcid": "https://orcid.org/0000-0003-1605-5121"
      },
      "institutions": [
        {
          "id": "https://openalex.org/I165522056",
          "display_name": "Tokyo Denki University",
          "ror": "https://ror.org/01pa62v70",
          "country_code": "JP",
          "type": "education",

```

```

    "https://openalex.org/I165522056"
  }
},
{
  "countries": [
    "JP"
  ],
  "is_corresponding": true,
  "raw_author_name": "Makoto Naka",
  "raw_affiliation_strings": [
    "School of Science and Engineering, Tokyo Denki University, Ishizaka, Saitama, 350-0394, Japan"
  ],
  "raw_orcid": null,
  "affiliations": [
    {
      "raw_affiliation_string": "School of Science and Engineering, Tokyo Denki University, Ishizaka, Saitama, 350-0394, Japan",
      "institution_ids": [
        "https://openalex.org/I165522056"
      ]
    }
  ]
},
{
  "author_position": "middle",
  "author": {
    "id": "https://openalex.org/A5003493165",
    "display_name": "Yukitoshi Motome",
    "orcid": "https://orcid.org/0000-0003-0707-366X"
  },
  "institutions": [
    {
      "id": "https://openalex.org/I74801974",
      "display_name": "The University of Tokyo",
      "ror": "https://ror.org/05fzh3y96",
      "country_code": "JP",
      "type": "education",
      "lineage": [
        "https://openalex.org/I74801974"
      ]
    }
  ],
  "countries": [
    "JP"
  ],
  "is_corresponding": false,
  "raw_author_name": "Yukitoshi Motome",
  "raw_affiliation_strings": [
    "Department of Applied Physics, The University of Tokyo, Bunkyo, Tokyo, 113-8656, Japan"
  ],
  "raw_orcid": null,
  "affiliations": [
    {
      "raw_affiliation_string": "Department of Applied Physics, The University of Tokyo, Bunkyo, Tokyo, 113-8656, Japan",
      "institution_ids": [
        "https://openalex.org/I74801974"
      ]
    }
  ]
},
{
  "author_position": "last",
  "author": {
    "id": "https://openalex.org/A5045519274",
    "display_name": "Hitoshi Seo",
    "orcid": "https://orcid.org/0000-0003-4907-7255"
  },
  "institutions": [
    {
      "id": "https://openalex.org/I4210110652",
      "display_name": "RIKEN",
      "ror": "https://ror.org/01sjwvz98",
      "country_code": "JP",
      "type": "facility",
      "lineage": [
        "https://openalex.org/I4210110652"
      ]
    }
  ]
}
]
}
```

```

    "https://openalex.org/I4210110652"
  ],
  {
    "id": "https://openalex.org/I4210132156",
    "display_name": "RIKEN Center for Emergent Matter Science",
    "ror": "https://ror.org/03gv2xk61",
    "country_code": "JP",
    "type": "Facility",
    "lineage": [
      "https://openalex.org/I4210110652",
      "https://openalex.org/I4210132156"
    ]
  },
  {
    "countries": [
      "JP"
    ],
    "is_corresponding": false,
    "raw_author_name": "Hitoshi Seo",
    "raw_affiliation_strings": [
      "Center for Emergent Matter Science (CEMS), RIKEN, Wako, Saitama, 351-0198, Japan",
      "Condensed Matter Theory Laboratory, RIKEN, Wako, Saitama, 351-0198, Japan"
    ],
    "raw_orcid": null,
    "affiliations": [
      {
        "raw_affiliation_string": "Center for Emergent Matter Science (CEMS), RIKEN, Wako, Saitama, 351-0198, Japan",
        "institution_ids": [
          "https://openalex.org/I4210132156"
        ]
      },
      {
        "raw_affiliation_string": "Condensed Matter Theory Laboratory, RIKEN, Wako, Saitama, 351-0198, Japan",
        "institution_ids": [
          "https://openalex.org/I4210110652"
        ]
      }
    ]
  },
  {
    "institutions": [],
    "countries_distinct_count": 1,
    "institutions_distinct_count": 4,
    "corresponding_author_ids": [
      "https://openalex.org/A5089226620"
    ],
    "corresponding_institution_ids": [
      "https://openalex.org/I165522056"
    ],
    "apc_list": {
      "value": 2190,
      "currency": "USD",
      "value_usd": 2190
    },
    "apc_paid": {
      "value": 2190,
      "currency": "USD",
      "value_usd": 2190
    },
    "fnci": 11.5649,
    "has_fulltext": true,
    "cited_by_count": 58,
    "citation_normalized_percentile": {
      "value": 0.99312748,
      "is_in_top_1_percent": true,
      "is_in_top_10_percent": true
    },
    "cited_by_percentile_year": {
      "min": 99,
      "max": 100
    },
    "biblio": {
      "volume": "3",
      "issue": "1"
    }
  }
]

```

05

PART 5 — ACTION

具体策とOpenAlex Member

データ利用セミナー、API利用の可視化、所属情報の修正、Unsubによる購読最適化。OpenAlex Memberの3ツールで予算戦略を実行に移す。

Member が提供する3つのツール — 3つの役割を1つの契約で

年間 \$5,000のMember費用に、以下の3ツールが含まれます。

① Affiliation Editor 機関出版物の保全責任者

役割 ①

自機関の所属文字列とROR IDを正しく紐付け、最短2日でOpenAlex全体へ反映。新規論文にも自動適用され、継続的に正しくカウント。

- ✓ 表記揺れを一括修正
- ✓ 「使う側」→「作る側」へ

② Unsub 電子購読支出の最適化

役割 ②

ビッグディールの中から費用対効果の低いジャーナルを数値で特定。利用統計・OA率・ILL率で「解約しても影響が小さい誌」を可視化。

- ✓ データ駆動の購読判断
- ✓ 予算をユーザのためのサービスへ

③ API 管理ダッシュボード データ基盤管理者

役割 ③

AIプログラム／スクリプトによる機関内のOpenAlex API利用を一元管理。機械利用をモニタ。
機関のOpenDBやAPI等活用の利用促進

- ✓ 機関APIキーの発行・管理
- ✓ 機械(マシン)利用の可視化

Affiliation Editor で「使う側」から「RORを付与する側」へ

なぜ下流では直せないのか

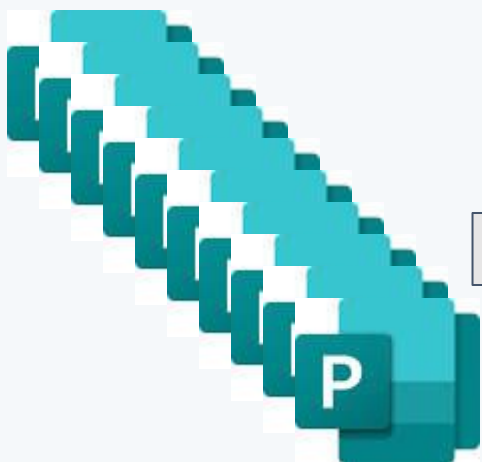
- ！ Crossrefのメタデータは出版社しか修正できない
- ！ 機関から下流→上流への修正はできない
- ！ RORを直しても既存の論文メタデータは自動修正されない
- ！ 1件ずつ探して直すのは時間がかかりすぎる
- ！ 上流に近いサイトで修正することが重要！！

10～20%

の Affiliation / ROR が欠落

iJapan調査(2021–2026)。Elsevier / Springer Nature/ Wiley/ T&F の全ISSNから各年毎に各5論文を抽出。→ 機関の研究成果が正確にカウントされていない可能性。

<https://www.igroupjapan.com/openalex-affiliation-notice/>



例:

WILEY



共通の課題

OpenAlex

Scopus®

それぞれ名寄せ

Clarivate™
Web of Science

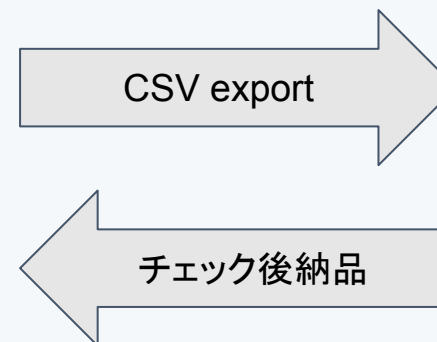
CAB
ABSTRACTS

具体策: Step1.実作業解説

役割 ① 機関出版物の保全責任者 データの品質改善

Affiliation Editor画面: 色々なパターンが存在、今はなき外部借り上げ研究室、古い3桁の郵便番号、古い名称、昔はあった呼称

	論文数
1. Institute for Protein Research Osaka University Osaka Japan	2
2. Department of Host Defense, Research Institute for Microbial Diseases, Osaka University, 3-1 Yamada-oka, Suita, Osaka 565-0871, Japan,	3
3. Immunology Frontier Research Center, Osaka University, Suita, Osaka, Japan	4
4. Department of Genome Informatics, Research Institute for Microbial Diseases, Osaka University"	1
5. Laboratory of Host Defense, World Premier International Immunology Frontier Research Center, Osaka University, Osaka, Japan	2



OXチェック
もちろん自機関で対応
いただいても問題あり
ません。



ご担当者様の仕事

ExportしたCSVの送付、納品物を確認し、1つずつ Affiliation Editorの表示ごとにチェックする。

→2日後にROR情報とともに反映される。

役割 ① 機関出版物の保全責任者 データの品質改善

Affiliation Editor 修正フロー(図書館は Affiliation Editorのデータを出力・確認のみ、iJapanが調査・チェック)



Affiliation Linking
Search and manage affiliation strings for any institution.

Find affiliations that contain and show only affiliations

1-100 of 8,308 affiliations Export CSV

☐ Affiliation statement	Works count
☐ Department of Mathematics and Computing, Mount Royal University, Calgary, AB, Canada	43
☐ Department of Biology, Faculty of Science and Technology, Mount Royal University, Calgary, Alberta, Canada	41
☐ Department of Pediatrics, Alberta Children's Hospital, The University of Calgary, Calgary, AB, Canada	40
☐ University of Calgary in Qatar, Doha, Qatar	40
☐ University of Calgary, USA	36
☐ University of Calgary , USA	36

Unsub — データ駆動型のジャーナルコレクション管理（個別も可能）

シナリオ:

- ・ビッグディールを解約
- ・CPUの低い205タイトルを個別に購読

試算結果:

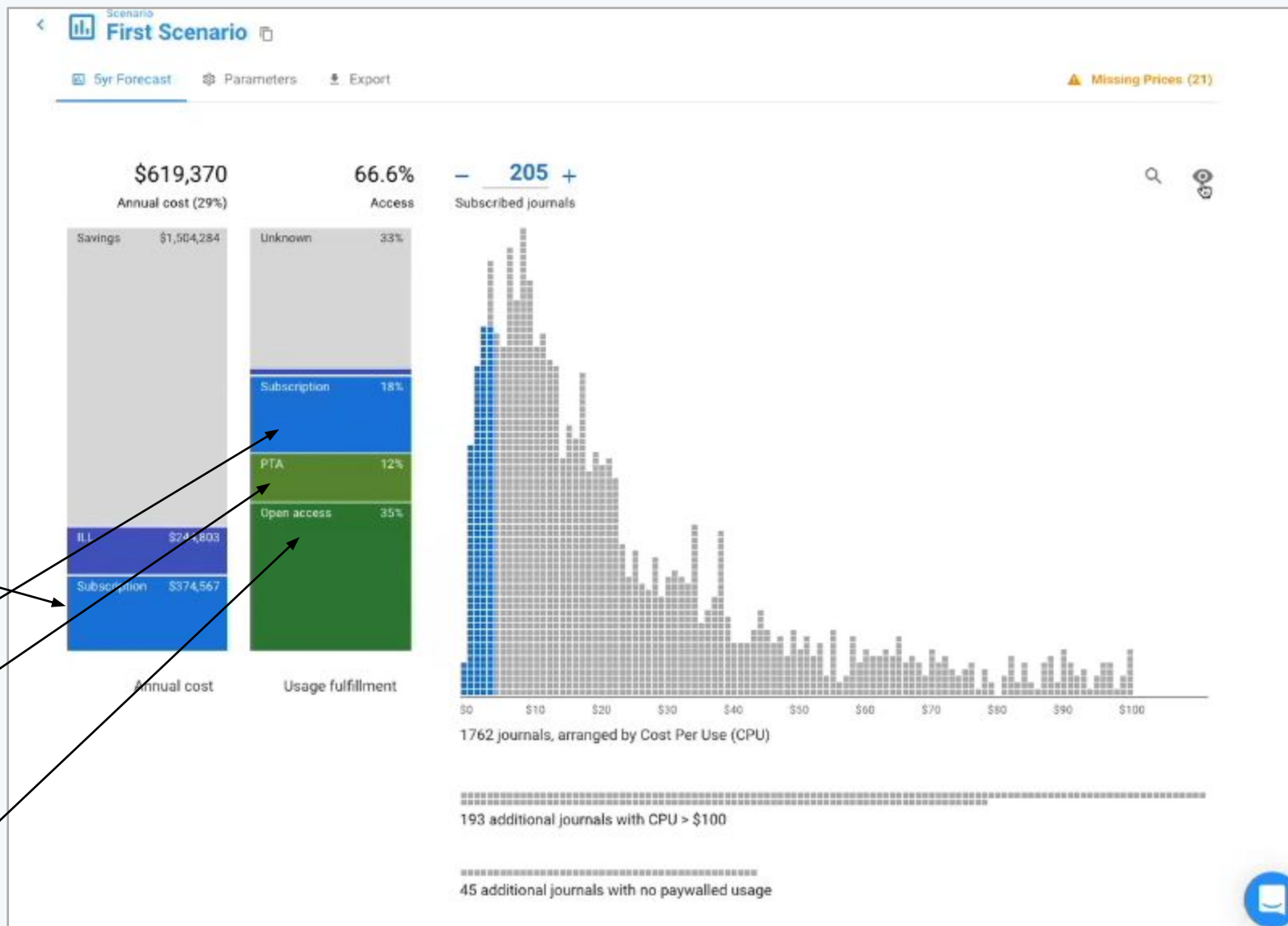
- ・想定アクセスの約67%をカバー
- ・約150万ドルの節約

購読のコスト: 約37万ドル

想定アクセスの18%は購読でカバー

想定アクセスの12%はPTAでカバー

想定アクセスの35%はOA論文でカバー



具体策: Step2.実作業解説
役割 ② 電子購読支出の最適化

条件: RORによりデータを収集: OpenAlexの正確なベースのデータにより、ジャーナルごとの著者や引用数を取得

Unsub: 準備するもの

- 1. 個別タイトル価格表
- 2. COUNTER Report
- 3. パッケージ価格
- 4. ILL単価
- 5. 著者加重設定
- 6. 引用加重設定
- 7. ジャーナル停止後のアクセス権

難易度

△(対象年による、出版社の移動タイトル、ミニパッケージタイトル、OA移行他タイトル等)
容易
容易
容易
容易
容易
○

準備後の作業

色々な購読パターンを解析し、適切な購読方法を模索

利用可能なシチュエーション

- ・学内合意形成
- ・出版社との交渉

未購読 ジャーナル			Journal of the National Medical Association					
概要			タイムライン					
ジャーナルメタデータ			年間利用量			年間コスト		
Elsevier BV	出版社		+	19	ダウンロード @ 1x	+	\$515	基本購読コスト
Medicine	主題		+	3	被引用 @ 10x	-	\$15	ILLコスト
0027-9684	ISSN		+	0.40	著者論文 @ 100x	=	\$500	実質購読コスト
はい	学会ジャーナル		=	88	加重合計利用量	÷	84	ペイウォール利用
いいえ	エンバゴ付きOA		-	4	オープンアクセス (4%)	=	\$5.89	利用単価
	PTA (終了後アクセス権)		-	0	バックファイル (0%)			
			=	84	ペイウォール利用			
						閉じる 購読する		

具体策: Step3.実作業解説
役割 ③ データ基盤管理者ーデータ活用の旗振り役

Organization API

Organization Plan

Member
\$20.00/day included API budget · Admin dashboard · Community representation · Affiliation editor · Unsub access

That's enough for:

- 20,000 searches (example)
- 200,000 filtered result sets (example)
- 2,000 downloaded PDFs

To learn more about usage limits, see the [developer portal](#).

Organization Usage just now Refresh

Your daily budget resets in 20 hr 15 min.

\$20.000 remaining (100%) of your \$20.00 daily budget

API Access

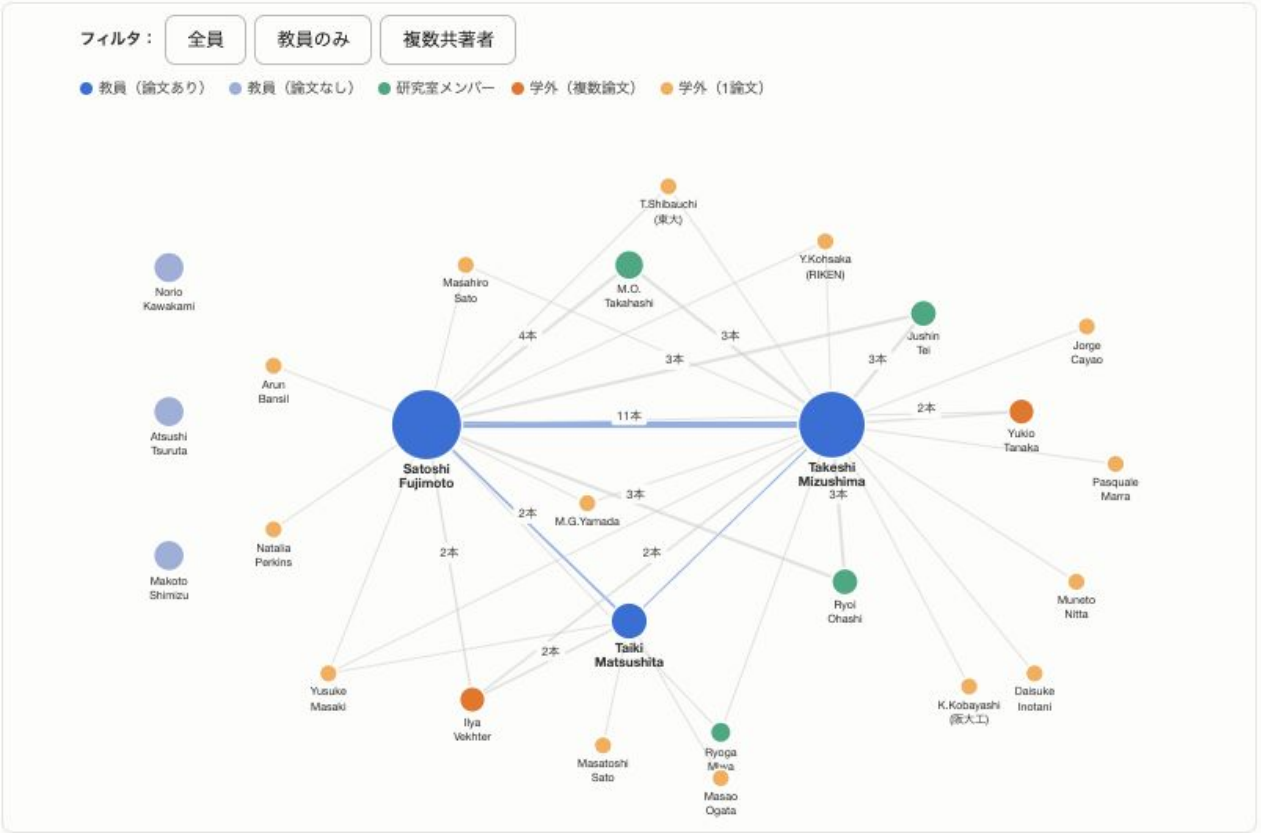
API Keys
Use these keys to authenticate API requests and access your daily budget

Copy Rotate

Learn more about the API in the [OpenAlex documentation](#).

業務内容

- ・API対応コンテンツの利用と促進
- ・機関用API Keyの管理
- ・定期的なセミナー等により利用促進
- ・問い合わせ対応



AIへのプロンプト:
東京電機大学 古谷涼秋教授の業績を <https://ra-data.dendai.ac.jp/tduhp/KgApp/k03/resid/S000104> 確認して、DOIを確認して、表示されている5つの論文から、共著分析と引用論文から、2世代前までの引用を測定したい。

(OpenAlex , PubMed, J-Stage) × AI

OpenAlex

327M件・CC0／論文・著者・機関グラフ・引用ネットワーク

PubMed

生命科学特化／MeSHで高精度・無料

J-STAGE / arXiv

日本語・プレプリントも統合し国内論文を捕捉



トレンド分析
特定学問分野でのホットピックの探索と推移



引用分析
中心論文や中心著者を探す。



共著マップ
著作物からの共著マップを時系列に表示

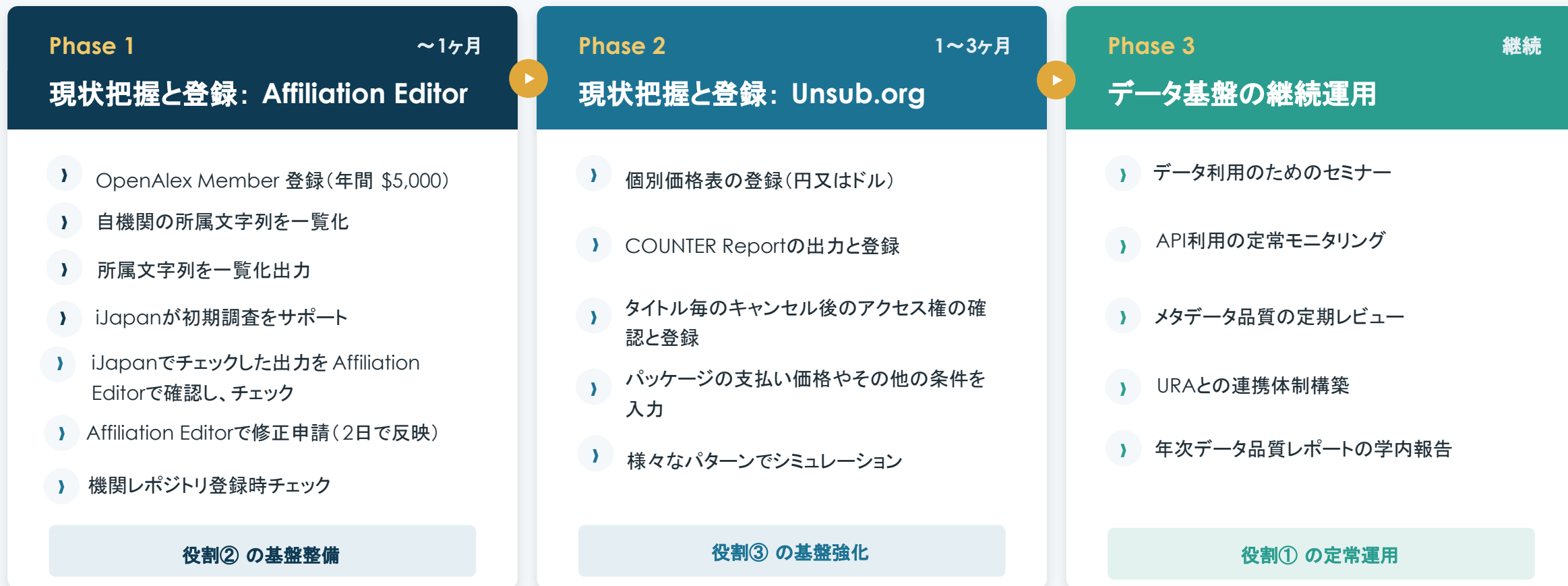


コラボレーションの可能性分析
外部資金獲得のための分析

先生との「会話」が生まれる — 図書館員が研究のパートナーになる

シナリオ: ①過去論文をPubMed・OpenAlexで分析 → ②AIが「次を書けるテーマ」を提案 → ③未引用の関連論文を提示 → ④先生と一緒に検討、文献入手・ILLまで一括サポート。

導入ロードマップ — 3つのPhaseで全役割を実現する



Member年会費 \$5,000 ⇔ Unsubでパッケージの再考、低利用誌、数誌の解約検討

| 弊社及びScholAgora社が各フェーズを伴走支援いたします

OpenAlex Member プラン — 規模と目的で選べる 3段階

ご推奨

Member

\$5,000 / 年

推奨スタート

- ✓ API利用管理ダッシュボード
- ✓ Affiliation Editor
- ✓ Unsub アクセス
- ✓ CABノミネート権
- ✓ 四半期ミーティング

Member+

\$10,000 / 年

大量API活用機関向け

- ✓ Memberの全機能
- ✓ APIの大量利用クレジット / 日 (単一キー)
- ✓ Data Sync Service (日次更新)

Partner

\$20,000+ / 年

オープンインフラを牽引する機関

- ✓ Member+の全機能
- ✓ 高使用量研究者アカウント ×5
- ✓ 年間5時間コンサルティング
- ✓ カスタム統合・分析

医学・薬学系の各機関は、まず Member からのスタートを推奨 | 弊社が導入をサポート

おわりに

限られた予算で、ユーザの満足と 50年先の学術情報の保全を両立させる。

図書館員がOpenAlexデータを磨き、永続識別子を整備する。セミナーを通じて研究者に API活用のデータ分析を教える。Unsubでジャーナルの費用対効果を検証し、2～5年後にはWoS・Scopusを廉価またはオープンな代替サービスへ置き換える。新しい時代とニーズに対応できるサービスを、ここから始める。

Curate

データを磨く

OpenAlexデータの品質を高め、ROR・ORCID・DOIで機関の成果を永続的に紐付ける。

Educate

研究者を育てる

セミナーでAPI×AIのデータ分析を教え、研究者が自ら情報を活用できる力を育む。

Optimize

コストを最適化する

Unsubで費用対効果を検証し、2～5年でWoS・Scopusからオープン基盤へ段階的に移行。

学術情報の未来を、OpenAlex Member で実現しませんか

年間 \$5,000 | Unsubで即回収 | iJapanとScholAgora社がお客様をサポート connect@igroupjapan.com / kazuki@igroupjapan.com